

6月1日、メキシコから無事大阪に到着いたしました。

15時間の時差を何とか早く解消したいと、メキシコを発つ日は、一睡もせずに朝を迎えて早朝空港に向かいました。7時に離陸した飛行機の中では、日本時間に合わせて睡眠を取りました。おかげで日本に到着した日は、全く問題なく熟睡することができました。この調子で時差が整えられますようにと願っています。

●メキシコ

メキシコでは、主から格別の祝福をいただきました。お祈り、ありがとうございました！今日は、早速その報告をさせていただきます。

(写真：コンサート会場のポスターの前にて、ピアニストのペドロ氏、カルロス師とカリーナ夫人)



5月24日、ニューヨークからメキシコに向かいました。メキシコに到着した日は、たくさんのハプニングが重なり、伴奏者も未定、伴奏譜のない楽譜のアレンジも全くなされていないという状態でした。それでも、すべてが不思議な主の平安に包まれていることを感じました。

25日、初見でスラスラ弾くことの出来る素晴らしいプロのピアニストが与えられました。

26日、メキシコの超一流のアレンジャーが伴奏譜を作成してくれることになりました。

そしてコンサート前日27日にアレンジが仕上がって来ました。

そのほか、PA装置の不足、一緒に出演するコーラスの衣装の不足など、信じられないほど様々な問題があったのですが、主は確実にそのひとつひとつを解決してくださいました。

28日、いよいよ朝食会+賛美伝道コンサート。予定参加者数200名だったのが、当日300名にふくらみました。準備のあわただしさで、私は前夜、なかなか眠ることができませんでした。でもコンサート当日、睡眠不足なのに、主の大きな導きと集中力を感じました。懸念していたスペイン語も、不思議なほどスラスラ口から流れ、日本語より流暢に話せたのではないかと思うほどでした。賛美曲もほとんどがスペイン語のものでしたので、人々の心に歌詞が深く響いたようでした。

賛美と証しの後、伝道師のカルロス師が、招きの祈りを捧げたときには、主は、確かに人々の心に触れてくださったという確信を覚えました。

でもコンサートの後は、カルロス師ご夫妻も私も深い疲労感に襲われ、その夜は皆ベッドに倒れ込みました。

コンサート後の二日間は、メキシコ・シティーと郊外の三つの集会で証しをさせていただきました。そこで、何人かの姉妹から、彼女たちのお母さんや息子さんが、コンサートで主を受け入れたことを聞きました。その後、カルロス師から、全部で十人以上の人々が信仰に導かれた報告をいただきました。大きなみ業をなしてくださった主を心から崇めます！

●セルヒオ・エルナンデス

今回のコンサートでの大きな喜びのもうひとつは、セルヒオという素晴らしい福音歌手と共に賛美できたことです。惚れ惚れするような美声の持ち主のセルヒオ氏は、まだ30代の若い男性ですが、収入を得るためにセキュラーの歌手になろうなどとは一切考えず、貧しくとも主を賛美する道だけをただひたすら歩んできました。

貧しい原住民族（インディオ）の牧師家庭に生まれた彼は、カルロス家の運転手をしながらわずかな収入を得るようになりました。何年か経ったある日、セルヒオ氏の賛美を初めて聞いたカルロス師は、その美声に腰を抜かすほど驚いたそうです。その後、セルヒオ氏は、カルロス師の集会の賛美アシスタントをするようになりました。そして、これまで4枚の賛美CDをリリースしてきました。



ドイツに開拓伝道に行ったとき、掃除婦やベビーシッターをしながら伝道したという私の証しを聞きながら、主のために労苦してきたのは自分だけではなかった、自分と同じようにすべてを捨てて主に従う決心をし、自分と同じ思いで賛美を捧げる歌手がいる、と思ったら、PAの奉

仕をしながら、セルヒオ氏は泣けて泣けて仕方がなかったそうです（写真上左）。そして、「良い働きを始められた方は」では、目を真っ赤にししながら、でも実に美しい歌声をもって、共に心からの賛美を捧げてくれました（写真右）。セルヒオ・エルナンデス。これから主に大きく用いられる器、そんな気がします。

あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。（ピリピ1：6）

●6月のコンサートのためにお祈りください！

10日（土）日本同盟基督教団シオンが丘キリスト教会賛美コンサート 19:00

TEL&FAX025-268-3712

17日(土) 吹田聖書福音教会コンサート礼拝 19:30~20:50 連絡先:教会 06-6387-0101

18日(日) 吹田聖書福音教会コンサート礼拝 11:30~12:50

24日(土) MB 寝屋川キリスト教会 14:00~16:00

連絡先:教会 072-828-5866

主の祝福が皆様とともにありますように!

工藤篤子